

【教育】医療安全教育手法に基づく多職種 人材育成共同利用拠点

教育に関わるすべての方に質の高い医療安全
教育を取り入れるための取組み

群馬大学保健学研究科 齋藤貴之



医療安全文化

医療や職場の安全は「安全専門家」だけでなく、すべての教職員によって築かれるものである。質の高い安全な医療を提供するためには、すべての医療者が安全科学に関する基本的知識、スキル、態度を育成する必要がある。WHO が患者安全カリキュラムガイドを発表してから10年以上経過したが、医療安全教育は国際的にもまだ十分に実施されておらず、不十分である。また、現在の医療安全教育は、医学科、看護学科など各専門領域で個別に実施されている。

教育関係共同利用拠点に認定

群馬大学は、医療安全改革に取り組み、2023年文部科学省から「医療安全教育手法に基づく多職種人材育成共同利用拠点」に認定された。

本拠点は、群馬大学が開発、実践してきた医療安全教育手法の豊富な経験と知見の蓄積を、広く全国の大学の多職種人材育成に関わる教職員へFDを提供するもので、医療安全教育手法の導入に困難を感じている多くの大学の教職員を支援することを目指すものである。

多職種人材育成のための医療安全教育センターを設置

医療安全教育においても多職種の連携・協働が望まれる。「多職種人材育成のための医療安全教育センター」を設置して、本センターがハブとなることで医療安全教育の多職種連携も可能にして、世界で通用する質の高い医療安全教育のプログラムを作成したい。

私たちが提唱する医療安全教育手法

1. 安全を狭義の「事故防止」に限定せず、組織全体のパフォーマンス向上として教育する視点と手法。
2. 教育項目に、従来の医療安全項目に加え、人間工学、システム思考、チーム医療に必要なノンテクニカルスキル、質改善手法などを含めて教育すること。
3. 既存カリキュラムに安全教育を組み込むこと。
4. 可能な限り、多職種連携教育アプローチを取り入れること。



医療安全教育手法に基づく多職種人材育成共同利用拠点

多職種人材育成のための医療安全教育センター

医療、保健、介護、福祉など多職種育成のための医療の質・安全教育の拠点となり、誰もが快適で活力に満ちた人間中心の社会 (Society 5.0) を実現する

日本を世界で最も発展した医療安全教育が充実した国にする



【必要性】

医療安全: 医療安全は国際的な重要事項である。

WHOは安全カリキュラムの普及と教育拠点要請

教育: 医療安全は多職種連携が必要だが、教育が職種間で分断
医療安全教育は非医療安全専門家が関わる

社会: 多職種で関わるSociety 5.0の人間中心の考え方の必要性

全医療職の養成機関のハブとなる教育共同利用拠点

1. 医療安全教育手法の国際的な知見を収集・統合

- ・WHO患者安全カリキュラムガイドの最新情報
- ・毎月100本以上出版される医療安全原著論文の情報

2. 医療安全教育コンテンツの開発と共有

- ・リーダーシップ、チームワーク、質改善

3. 医療安全教育手法の開発と共有

- ・講義形式だけではないアクティブラーニング、オンライン学習

4. 多職種の医療安全教育のネットワーク形成

- ・オンラインは物理的に離れた教育機関・学科間の合同演習を可能にする

医療、保健、介護、福祉
など多職種のための
医療安全教育手法

次世代型リーダーシップ
プログラム



もっと詳しく: 群馬大学 多職種人材育成のための医療安全教育センター
【<https://psec.med.gunma-u.ac.jp/>】